

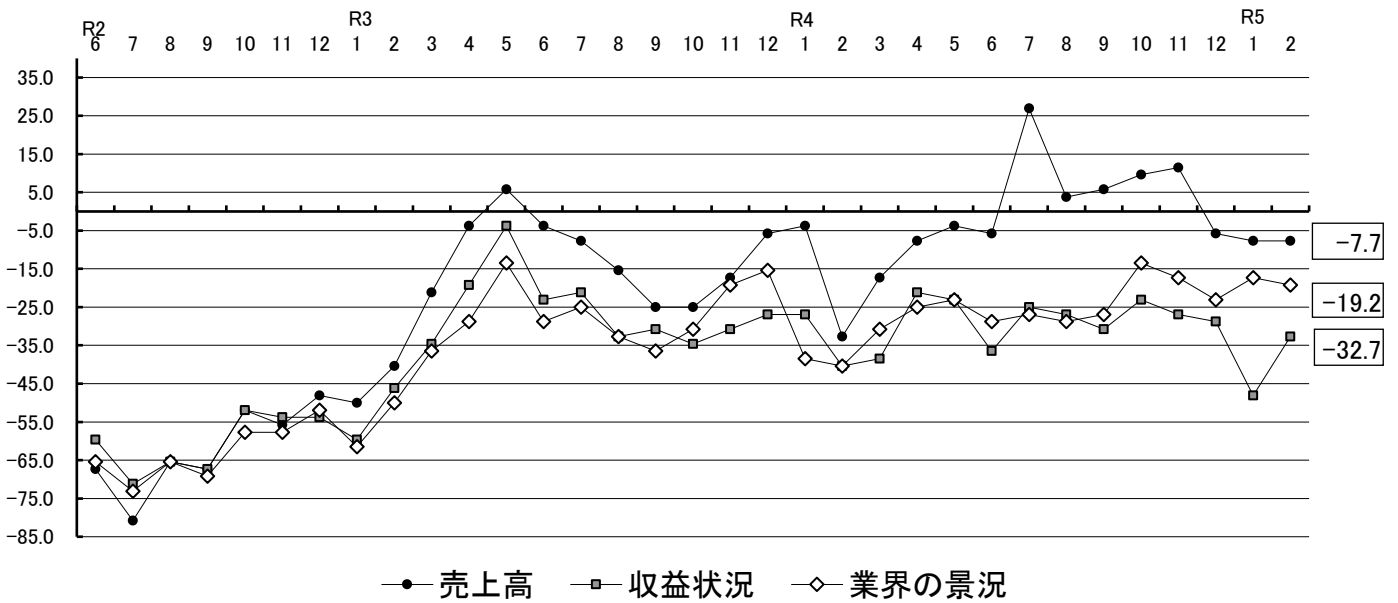
# 中小企業団体情報連絡員報告結果(令和5年2月分)

栃木県中小企業団体中央会

この報告結果は、栃木県中央会において設置している中小企業団体情報連絡員(中小企業組合(協同組合、商工組合等)の役職員52名に委嘱)による、所属組合の組合員企業の全体的な景況です。

- 主要3指標は、「収益状況」が上昇、「売上高」は不変、「業界の景況」はわずかに減少した。
- 製造業で「鉄鋼・金属」「木材・木製品」、非製造業で「小売業(飲食業含む)」が依然として厳しい。
- 原材料・エネルギー価格の高騰や人手不足・部品不足による減産などの状況が長期化している。

県内主要3指標の推移(前年同月比DI値)



主要3項目	県内		全国	
	DI値	前月比	DI値	前月比
売上高	-7.7	0.0	+0.4	+7.2
収益状況	-32.7	+15.4	-29.1	+4.1
業界の景況	-19.2	-1.9	-22.7	+2.5

## 売上高

当月の県内売上高DI値は、前月同様、-7.7ポイントとなった。全国においては、前月より7.2ポイント上昇し、+0.4ポイントとなった。

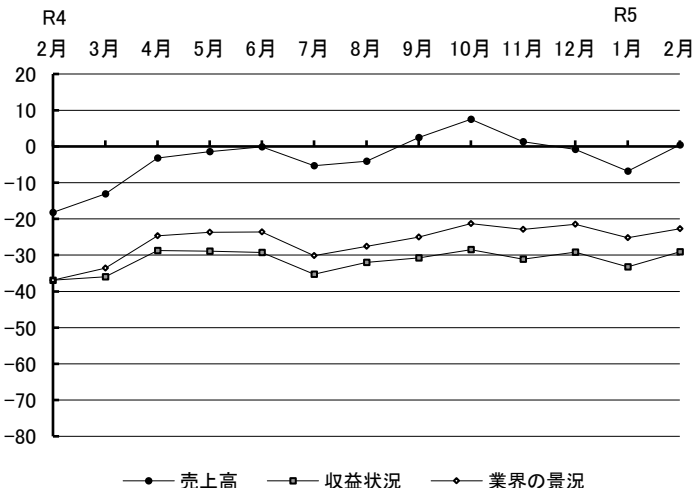
## 収益状況

当月の県内収益状況DI値は、前月より15.4ポイント上昇し、-32.7ポイントとなった。全国においては、前月より4.1ポイント上昇し、-29.1ポイントとなった。

## 業界の景況

当月の県内業界の景況DI値は、前月より1.9ポイント下降し、-19.2ポイントとなった。全国においては、前月より2.5ポイント上昇し、-22.7ポイントとなった。

全国集計結果の推移



-概 況-

2月の前年同月比DI値は、前月と比べ9指標中3指標が下降した。主要3指標は「売上高」は前月同様、「収益状況」は15.4ポイントの大幅な上昇、「業界の景況」が1.9ポイント下降となった。

連絡員からの報告によると、製造業の「鉄鋼・金属」では、自動車関連で1月から部品不足などの理由から減産体制が続いている。また、鋼材関連では年明けから荷動きが減少傾向にあり、原材料・エネルギー料価格高騰から安売りはできず失注する例もある。「木材・木製品」では、ウッドショック以前の価格水準に戻りつつあるが住宅金利等社会環境の変化や価格転嫁が不十分であり、まだまだ先行きが見えない状況である。

非製造業の「建設業」では、年度末を迎え工事受注は増加傾向にあるものの、材料費の値上げ等により収益は圧迫されている。また、受注はあるものの人手不足により工事の進捗が若干ではあるが遅れ気味となっている。「運輸業」では、全体的な荷動きは低調であるが、自動車関連の受注が好調であった。半導体不足の回復には時間がかかるが、期待が持てる状況になりつつある。

図表1 【業種別・指標別DI値一覧表】

	売上	在庫	価格	条件	収益	資金	設備	雇用	景況
食料品製造	100.0	50.0	50.0	-25.0	-50.0	-25.0	25.0	25.0	-25.0
繊維・同製品	25.0	0.0	25.0	-25.0	-50.0	0.0	0.0	0.0	25.0
木材・木製品	-75.0	50.0	-25.0	-25.0	-75.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
印刷	-100.0	0.0	100.0	0.0	-100.0	0.0	0.0	-100.0	0.0
窯業・土石	-75.0	0.0	25.0	0.0	-50.0	0.0	-25.0	0.0	-50.0
鉄鋼・金属	-25.0	-25.0	50.0	0.0	-50.0	-50.0	-25.0	-25.0	-25.0
一般機器	0.0	-25.0	25.0	-25.0	-25.0	-50.0	0.0	0.0	-50.0
製造業	-12.0	8.0	28.0	-16.0	-52.0	-20.0	-8.0	-4.0	-28.0
卸売業	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
小売業	-57.1	-14.3	0.0	-28.6	-71.4	-42.9		0.0	-57.1
サービス業	16.7		50.0	16.7	0.0	0.0		0.0	16.7
建設業	20.0		20.0	0.0	0.0	-20.0		-20.0	0.0
運輸業	25.0		0.0	0.0	25.0	0.0		0.0	0.0
その他	-50.0		50.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
非製造業	-3.7	-10.0	22.2	-3.7	-14.8	-14.8		-3.7	-11.1
全体	-7.7	2.9	25.0	-9.6	-32.7	-17.3	-8.0	-3.8	-19.2

図表2 【指標別DI値の推移】

	4年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	5年 1月	2月	前月比
売上高	-32.7	-17.3	-7.7	-3.8	-5.8	26.9	3.8	5.8	9.6	11.5	-5.8	-7.7	-7.7	0.0
在庫数量	-8.6	-20.0	-17.1	-14.3	-5.7	-11.4	-5.7	-14.3	5.7	5.7	-5.7	2.9	2.9	0.0
販売価格	15.4	21.2	25.0	25.0	23.1	32.7	30.8	30.8	36.5	34.6	30.8	23.1	25.0	1.9
取引条件	-5.8	-7.7	-7.7	-9.6	-9.6	-9.6	-9.6	-13.5	-7.7	-11.5	-7.7	-11.5	-9.6	1.9
収益状況	-40.4	-38.5	-21.2	-23.1	-36.5	-25.0	-26.9	-30.8	-23.1	-26.9	-28.8	-48.1	-32.7	15.4
資金繰り	-26.9	-21.2	-13.5	-11.5	-13.5	-13.5	-25.0	-21.2	-15.4	-21.2	-21.2	-30.8	-17.3	13.5
設備操業度	-28.0	-12.0	-20.0	-16.0	-20.0	4.0	-12.0	-12.0	4.0	12.0	0.0	-4.0	-8.0	-4.0
雇用人員	-11.5	-5.8	-7.7	-13.5	-13.5	-3.8	0.0	-1.9	-3.8	-5.8	-3.8	-1.9	-3.8	-1.9
業界の景況	-40.4	-30.8	-25.0	-23.1	-28.8	-26.9	-28.8	-26.9	-13.5	-17.3	-23.1	-17.3	-19.2	-1.9

# 特記事項

## 情報連絡員報告（令和5年2月分）

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
食料品	和洋菓子製造業	売上高は増加しているが、光熱費等の高騰で収益の面で大きな影響を受けている。
	あん類製造業	観光地と密接な製餡会社ほど、売上が伸びている。
繊維工業	絹・レース・繊維粗製品製造業	中国の動向や社会情勢がコロナの影響にあまり左右されなくなったせいか、前年同時期に比べ、売上は堅調に推移した。ただ、全体的には物価高騰の影響は大きく、世の中の「衣料品への消費は後回し」感をすごく感じている。「今は仕方ない」と思うところではあるが、組合員も取引先も会話の中でため息が多くなっている。
木材・木製品	一般製材業	建築木材については、ほぼウッドショック以前の価格水準に戻りつつあるが住宅金利等社会環境の変化によりまだまだ先行きが見えない状況である。
	家具・建具製造業	販売価格が上昇するも、原材料・エネルギー価格の転嫁が不十分であり収益・景況感は悪化している。
印刷	印刷業	相変わらず需要が低迷している一方、資材価格が高騰してきている。価格転嫁はまだまだ途上で収益状況の悪化に歯止めがかからない。
窯業・土石製品	陶磁器・同関連製品製造業	1月に続き売上が減少している。組合員への原料供給も1月と同じ状態である。春の陶器市に向けた製造は3月より行われる予想です。週末の観光客は、戻りつつある様だが小売店によると売上は伸びてはいない。
鉄鋼・金属	金属製品製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車関連においては1月に続き、部品不足などの理由から減産体制が続いており残業もできない状況にあるため、生活財源は厳しさを増している現状である。</li> <li>鋼材関連は、年明けから荷動きが減少傾向にあり最悪と言える。（原材料やエネルギーの高騰から安売りはできず失注する例も多い）</li> <li>様々な経済団体があるが、新年度に向けて退会（脱退）希望者が特に増えてきている。（物価の高騰で経費削減、経営環境の悪化、メリットを感じないなどの理由）</li> <li>市内、夜のタクシーや代行もエネルギー価格の高騰や人手不足で台数が減少らしく移動への影響も出ている。</li> </ul>
	金属製品製造業	売上高、販売価格増は前月同様。ある企業による一般経費（電力料等）の値上がり状況の調査があった。
	金属製品製造業	自動車部品・機械設備・金型関連ともに不変（コロナ禍による売上不変、人件費増加、人手不足、原材料仕入れ単価の上昇）
一般機器	一般機械器具製造業	売上高はほぼ前年同様の組合員企業が多いが、仕入れ資材の状況は引き続き高値傾向であり、電気料、消耗品等の更なる値上懸念もある。これに対し販売価格の転嫁が出来ている企業もでてきているものの、販売価格交渉中並びに転嫁が難しい企業も少なくない。結果として収益状況は全般的に不変となっている。操業度はほぼ前年同様、企業によっては人手不足が深刻な状況も存在している。今後のロシアによるウクライナ侵攻による化石燃料の上昇や物価上昇等、懸念材料が多々ある。
卸売業	各種商品卸売業	一部業種を除き売上高、収益、業況等は前年同期に比べ好転とする企業が多い。仕入単価上昇の影響により利益率は減少とする企業もある。
小売業	食肉小売業	閑散期の1月2月の売上が低迷しており、電気・ガス・一般食品の値上げも続き、消費マインドが落ちている。

	各種商品小売業	前年同月はコロナ感染者が急増したタイミングであり非常に厳しい状況下であったため、前年比では大幅に増加した。しかし、先月同様、光熱費等の高騰が経営を圧迫している状況は改善される気配はない。
	花・植木小売業	葬儀施行件数は数年で一番の多さ。花材の高値が続き利益の確保が難しい。婚礼件数は戻りつつあるが単価が伸びない。（披露宴参加人数の関係）小売り花材の高値が続き厳しい。
サービス業	理容業	高齢で後継者のいない組合員の脱退・廃業が増加している。理容業界で深刻な問題となっている後継者不足は、今後も組合のできる範囲で、対処していくべき課題の一つである。
	旅館・ホテル	2月も宿泊は比較的高稼働で推移したがコロナ前にはまだ若干足りていない。宇都宮駅東口にライトキューブがオープンしたが、医療学会等のコンベンションはハイブリッド開催が主になるので人数は期待できない。スポーツコンベンションはリアル開催のみなのでwithコロナで誘致すべきコンベンションは明確である。（宴会）新型コロナウイルス宿泊療養施設により100%ダウン。（飲食店）まだまだ飲食店の利用を控える傾向が非常に強い状況だが類型変更と感染減少傾向を見据え少し回復基調が見えた感はある。
建設業	職別工事業	年度末を迎え工事受注は増加傾向にあるものの、材料費の値上げ等により収益は圧迫されている。また、受注はあるものの人手不足により工事の進捗が若干ではあるが遅れ気味となっている。
運輸業	貨物自動車運送業	大型トラックの稼働状況は、多くなっておりやや改善傾向にあるが半導体不足の影響で輸送量的には少ない。日用品等の輸送量は多くなってきているので、今後も持続することを期待している。
	貨物軽自動車運送業	全体的な荷動きは低調であるが、自動車関連の受注が好調であった。半導体不足の回復には時間がかかるが、期待がもてる状況になりつつある。今月には3回目になるインボイスの研修会も実施、申請に向けての手順や、帳簿管理等について顧問税理士を講師に60名の組合員が研修を受けた。
	一般乗用旅客自動車運送業	昼夜を通して利用者が増加しているが、その一方でタクシーの稼働台数が少ないため、週末の夜間はタクシーを待つ状況が散見される。